

## 弘法川河川敷の「木」(船越)

2014年に福知山市を襲った大水害。写真は当時テレビニュースで、橋を飲み込む川の流れの恐ろしさが頻りに放映された弘法川(私の自宅は川沿いです)の今の様子です。河川改修で、川底は深くなり、川幅は拡張され、橋も架け替えられました。その川沿いのわずかな土壌に雑草が伸びているのですが、その中に「木」(写真左上の葉の塊)が生えてます。幹があって、枝が伸びて、葉が茂る「木」です。樹木は、昔から生えているか、植林されてあるものと思っていたのですが、目の前でそいつは育っていつてます。周りの雑草群を見下ろすように自生する「木」の育ちっぷりを目の当たりにするのは、結構衝撃的、かつ感動的です。この木が、今後起こるかもしれない水害時に河川敷を護ってくれるのか。それとも流れをせき止めて被害を増幅してしまうのか。興味の尽きない「気になる木」です。



## 知っところ! 「税」の マメ知識

### 今月のマメ知識:【定額減税と給付付き税額控除はどう違う?】

「定額減税」と「給付付き税額控除」は、どちらも家計負担を軽減する仕組みですが、その性格は大きく異なります。2024年に実施された定額減税は、1回限りの「物価高対策」としての性格が強い制度です。それは納税額から一定額を差し引き、引ききれない分を「調整給付金」として補う仕組みでしたが、あくまで減税がメインで、給付はそれを補完する一時的な措置でした。一方、議論が進んでいる給付付き税額控除は「減税」と「給付」をひとつのシステムとして統合した「恒久的な所得支援策」です。税額が控除額を下回る場合でも、その差額が自動的に給付されるため、低所得層や子育て世帯にも継続的かつ確実に支援が届く仕組みです。また多くの国では、働けば働くほど支援額が手厚くなる設計が採用されており、就労意欲を高める効果も期待されています。なお日本での導入にあたっては、自営業者などの正確な所得把握や、安定した財源の確保、マイナンバーの活用方法などが重要な論点となっています。



## 世界の偉人伝

### 今月の偉人:【ダンテ】

ダンテ・アリギエーリはルネサンス文化の先駆者として知られる、イタリアの詩人、政治家です。フィレンツェの小貴族の家に生まれ、ラテン語や修辞学を学び、ボローニャ大学に入学して哲学や天文学を研究しました。政争からフィレンツェを追放され、放浪生活の中で文筆活動を続けました。代表作「神曲」は地獄・煉獄・天国の3篇の叙事詩です。人の心に火を放つ火花「自負、嫉妬、貪欲」、生涯恋焦がれたベアトリーチェへの賛美。自身の人生観と中世的世界観を交えた傑作です。

## 気軽に Let's 英会話

### 今月のキーワード:【alert】

5月から防災気象情報が変わり、警報に「警戒レベル」が付記されます。一目で分かる表示はいいですね。「気象警報」は“weather alert”です。「ウエザー」も「アラート」も日本語で見聞きする言葉ですね。“alert”は形容詞では「油断のない・注意を払う・機敏な」などの意味があり、“An alert guard stopped the robbers.”は「警戒していた警備員が強盗を止めた」、「Stay alert when you drive!」「運転中は注意して!」、「He's an alert baby!」「敏感な赤ちゃんだ!」のように使います。



### 今月のトピック：【シニアのリゾートバイト】

観光地のリゾートバイトで生活するシニアが増えています。半年間ほどの短期が主流で、調理補助や接客、清掃など経験や体力に応じた選択肢が豊富、まかないや寮の利用で食費・住居費を節約可能です。休日には観光や温泉めぐりを楽しむ、半分旅の働き方が人気です。老後の隠居などまだ先のこと。貴重な戦力として社会に貢献しています。



### 才人の言葉

叶うはよし  
叶いたがるは悪し

日本の茶人である千利休の言葉。未来の自分は、今の自分の延長線上にある。歩みを進めることが最良の方法であり、それは日々、願いを叶えているのも同然なのだ。

ゆで卵やチーズ、よく熟れたアボカド、ケーキなど包丁で切ると潰れてしまうものは、ピンと張った裁縫糸で上から一気に押し切ってみてください。断面が驚くほど美しく仕上がります。フルーツサンドで萌え断（映える断面）を作りたいときにも重宝します。

知恵の表

### 振り向けばあそこにも「商売のヒント」

#### 今月の商売のヒント：【どこを削るか。何を残すか】

ベテランの木工職人が弟子に言ったそうです。「一流の仕事は、どこを削るかに出る」。これは商売にも似たような側面があります。



新しい事業、新しいサービス、新しい人材など、経営者であれば「足す」ことへの嗅覚は自然と磨かれていきます。成長への欲は経営者の本能のようなものです。同業他社が新しいことを始めたと聞けば気になるし、取引先に新商品をすすめられれば断りづらく、気づけば手を広げすぎていた。そんなこともあるでしょう。ところが「やめる」となると途端に足が重くなるのも事実です。長年続けてきた事業、古くからのお客さま、なじみの取引先、共に苦労してきた社員がいる部門部署。そこには決して数字だけでは測れない歴史があります。「やめる」という判断は、その歴史ごと否定するような罪悪感を伴い、だからこそ多くの経営者は薄々気づきながらも決断を先送りにしてしまうのです。しかし、それは弱さではなく、むしろ誠実さの表れだと思います。ただ、誠実さと執着は、ときに見分けが付きません。続けることが「責任」なのか、それとも「慣性」なのか。その境界線は外からは見えづらく、自分でも気づきにくいものです。「これは誰のために続けているのか？」そう自問したとき答えがずっと出てこないなら、それは「何かを削る」引き算のサインかもしれません。どこを削るか。何を残すか。余分を削り落とすことで作品の完成度を際立たせる木工職人ように、商売もまた、やめる決断の先に会社の本当の姿が浮かび上がることがあるかもしれません。削った先に何が残るか。何を残したいか。その問いが次の一手でしょう。

### トナリの本棚

#### 【失われた貌】

本格ミステリ大賞をW受賞した新鋭作家・櫻田智也の長編ミステリー。精密なロジックと魅力ある登場人物がかもし出す人間ドラマを堪能できる一冊です。



#### 船越税理士法人

〒620-0054

京都府福知山市末広町 1-1-1 中川ビル 3 階

TEL: 0773-22-3708 FAX: 0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: [info@f-office301.com](mailto:info@f-office301.com)

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎